

月刊 くちのえらぶ島の自然(4月号)

発行:えらぶ年寄り組
発行日:2014年4月8日
4月号

新年度の活動を始めました。新緑が美しい3月31日と4月1日には、砂防ダム・ミカン山付近でタカツルラン・モニタリングに、「年寄り組」も参加しました。見学参加者1名も加わりました。

このような行事の折に**参加を希望される方**は、あらかじめ「年寄り組」まで、ご連絡ください。ご希望をお寄せ下されば、電話連絡します。

タカツルラン

東北大学の辻田さんのタカツルランの研究を、「屋久島まるごと保全協会」の手塚さんたちとともに手伝っています。辻田さんの目的の一つは「タカツルランは、どんな菌から栄養をもらっているのか」です。また、採取した種をまいて、発芽実験をしています。

タカツルランの観察

月日	時間	観察場所	観察内容	参加
2014/4/1	1600-1730	砂防ダム下	3個体をモニタリング。	屋久島3、口永良部3、見学参加1
2014/3/31	830-1230	ミカン山付近	播種した個体の確認、菌根の採取。十数個体のモニタリング。	屋久島3、口永良部2、見学参加1

エラブオオコウモリ

◆観察会

毎月1回、上弦の月を過ぎたころから満月までの期間で、好天の夜を選んで(月明かりがあるので)、エラブオオコウモリの頭数を数えます。4月は7日ころが上弦の月です。

夜間19時半～21時、学校のワシントンヤシ下で。たとえ30分の短時間の参加でもOKです。

コウモリの定点観察

月日	時間	観察地域	内容	頭数	観察者
4月7日	2000	学校ヤシ	投光器で視認	1	山口、山口米
3月29日	1930	学校ヤシ	投光器で視認	0	山口、山口米
3月27日	2330	学校ヤシ	投光器で視認	6	森ちぐさ
3月末まで	ペリットは冬季も観察できました。ヤブニッケイ、グミの葉、クチナシ実など。				

◆地図づくり

どこなら、目の前でコウモリが見られるか、どこでペリットを見つけられるか……など、地図を作っています。ご期待を。

ウミガメ

◆ウミガメの利用？

3月18日の「ウミガメ講演会」は約25名の参加があり盛会でした。

屋久島うみがめ館の**大牟田一美さん**から「屋久島うみがめ館の活動」と題した講演を聞かせてもらいました。興味深かったことは、「屋久島では、ウミガメが増えすぎて困っている。大東島のように、制限を設けてだが、卵を販売したり、カメの肉を食べても良いのではないか」とのお話でした。保護だけでなく、「ウミガメを利用することも考えよう」との、ご提案でした。口永良部島でも、ウミガメの活用を考えませんか。

◆美浦のアオウミガメ

今シーズンは、昨年のように、向江浜のウミガメ監視活動を行います。加えて、美浦沖に棲みついている数頭のアオウミガメの調査を計画しています。

本当に、同じカメが棲んでいるのか？入れ替わり立ち代わり、美浦にやってくるのか？それを確かめたいものです。水中カメラで撮影し、甲羅の模様から、確かめられないか……。広島大学の坂井先生や学生さん、屋久島うみがめ館の大牟田さんたちに、協力をお願いしているところです。

美浦のアオウミガメは、さわっても逃げ出さないほど人を警戒していません。シュノーケリングで簡単に出会える美浦のアオウミガメは、サンゴや魚などとともに、観光客には魅力でしょう。

◆九州ウミガメ会議

4月12日に、桜島で開かれる「**九州ウミガメ会議**」で、今年の活動を山口が報告する予定です。

国際照葉樹林サミット

口永良部島も討議や行事の対象になっています。

6月7日(土)、8日(日)に、屋久島で「国際照葉樹林サミット」が開催されます。京都大学のホームページによれば、サミットの目的として、「照葉樹林の保全と利用のあり方について検討するだけでなく、他地域の取り組みとも連携して地域づくりにつなげる機会にしたい」……とあります。

口永良部島には、スタジイなど照葉樹林が広がっており、今もなお、豊かな恵みを私たちにもたらし続けています。サミットでは、口永良部島も重要な役割りを果たすこととなります。3月30日には屋久島の関係者が来島、口永良部島で打ち合わせ会を開きました。

6月7日には、「ユネスコエコパークー森の恵みが支える地域の豊かな発展(仮題)」とする討論が予定されており、口永良部島から**貴船 森さん**が発表されます。また全体討議では「屋久島・口永良部島における照葉樹林を活かした地域づくりの意見交換」が予定されています。さらに9日には**口永良部島**での現地見学会が予定されています。

前回のサミットは、21012年にネスコ・エコパークに指定された宮崎県・綾町で開催されました。

名前を変えたら？

自然の観察などの行事に参加はしたいけれど、「年寄り」ではないからな……とか、「年寄り組ではいやだな、「年寄り組」の名前を変えたら……などの、ご意見を耳にするようになりました。

確かに、その通りかもしれません。

自然の観察や保護の活動は、島の誰もが参加できるようにすべきです。たとえば、「口永良部島環境会議」、「口永良部島自然会議」、「くちのえらぶ島ファンクラブ」、「くちのえら島の自然をまもろう会」……などなど、自然保護に関しては、「えらぶ年寄り組」とは別の組織で活動した方が良いのかも知れません。皆さんは、どのように思われますか？

スマートフォンで

屋久島町の公式ホームページトップ頁右の「口永良部島の紹介」バーナーから、

「口永良部島ポータルサイト」→「えらぶ年寄り組」のホームページにアクセスできます。